

2022年5月

2022年3月期
(2021年4月1日～2022年3月31日)

決算説明資料

ディーバイエックス株式会社



1 会社概要

(1) 会社概要	4
(2) 事業系統図	5
(3) 事業の特徴	6

2 当期のハイライト

(1) 当期の取り組み	8
-------------	---

3 当期の決算概況

(1) 要約損益計算書	16
(2) 売上高	17
(3) 売上総利益	24
(4) 営業利益	26
(5) 当期純利益	28
(6) 要約貸借対照表	29
(7) 要約キャッシュ・フロー計算書	30
(8) 配当	31

4 2023年3月期の見通し

(1) 2023年3月期の取り組み	33
(2) 業績予想（売上高）	34
(3) 業績予想（営業利益）	35
(4) 業績予想（当期純利益）	35
(5) 配当予想	36

5 中期展望

(1) 中期展望	38
(2) ESG方針	39
(3) 企業理念	40

1 会社概要

会社概要



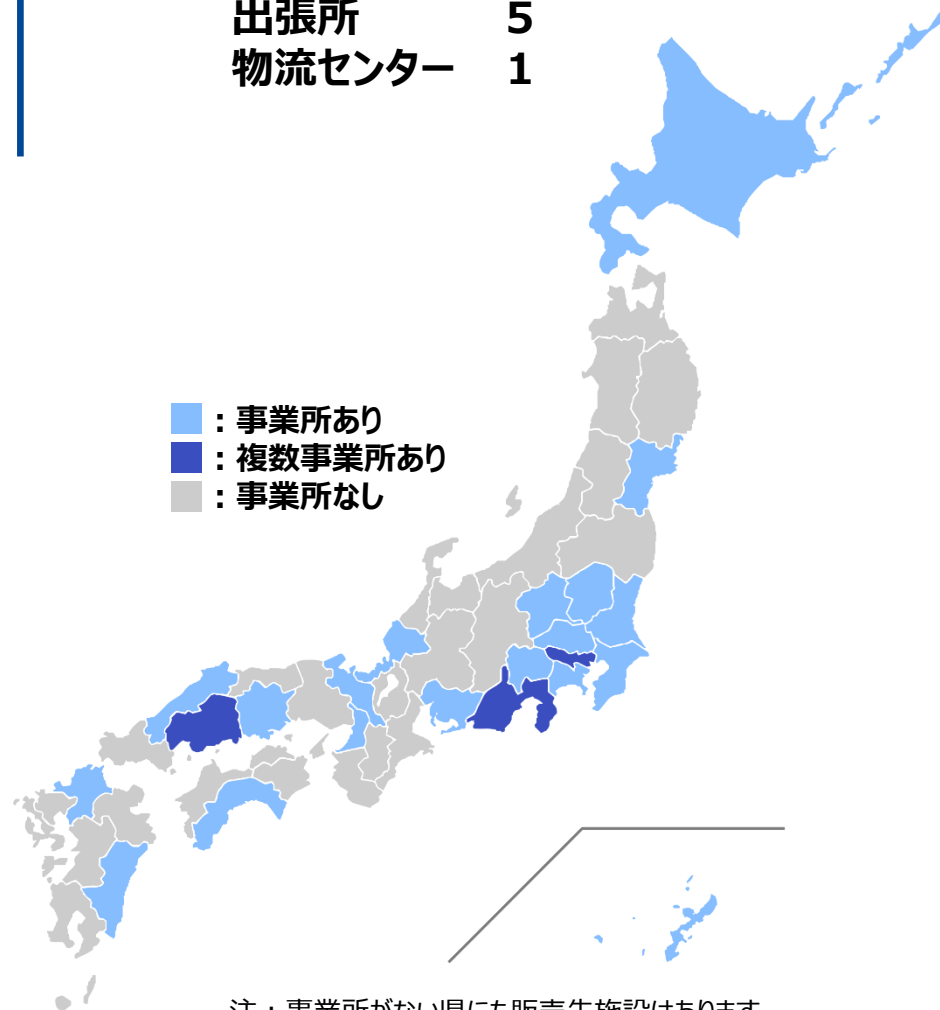
設立 1986年4月1日
資本金 344,457千円
従業員数 328名（営業部門254名）

事業所 営業所 21
出張所 5
物流センター 1

- ソリューション・プロバイダー
- 地域密着営業
- スペシャリスト集団
- 挑戦型企业

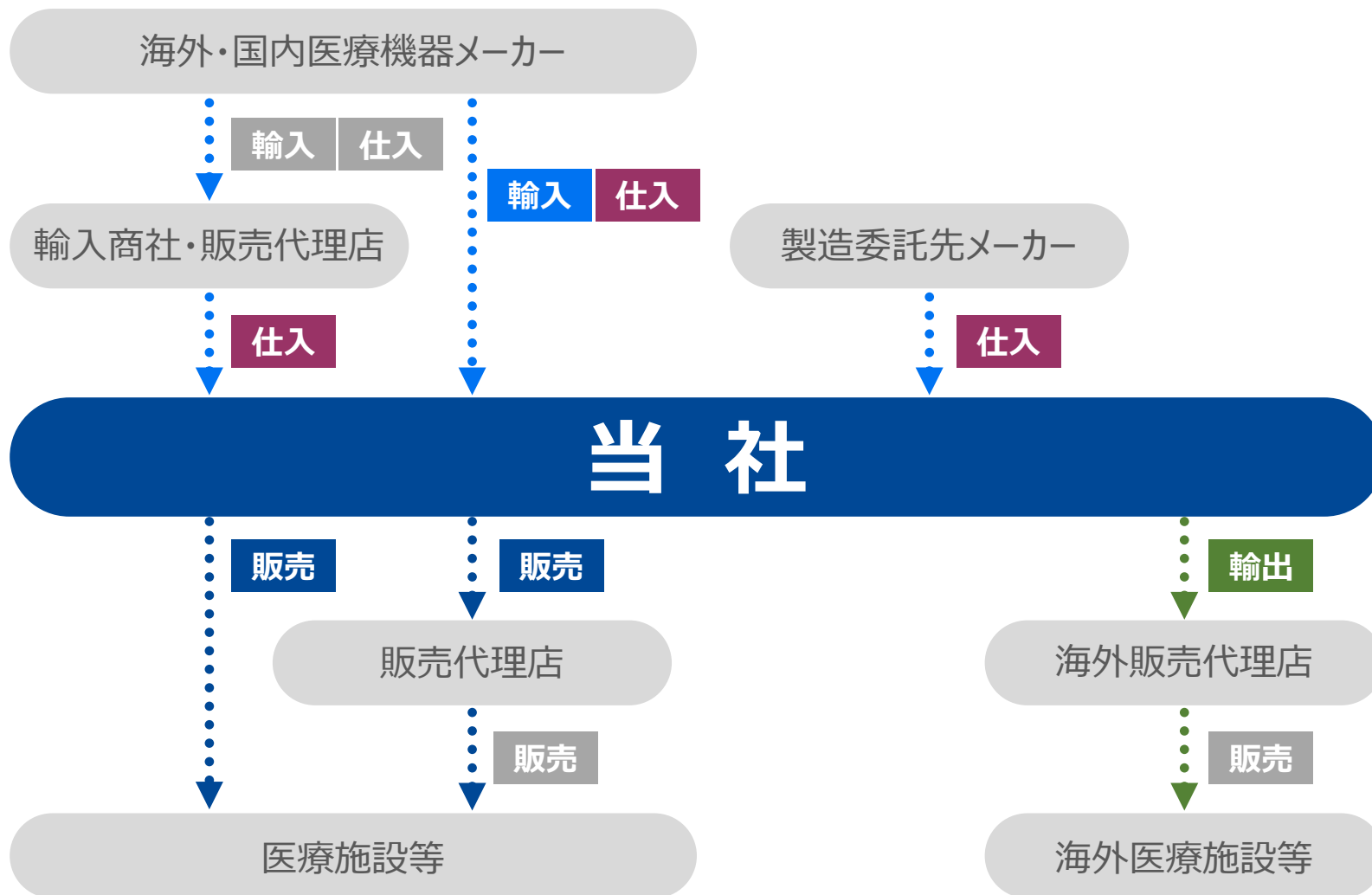
病気で苦しむ人々の
Quality of Lifeの向上

人に優しい医療への貢献



注：事業所がない県にも販売先施設はあります。

事業系統図



専門性

循環器分野に特化した
スペシャリスト集団

個人・組織の高い問題解決能力

医療現場からの信頼

首都圏

首都圏で、
循環器分野No.1のシェア構築

ABLを行う施設、
ABLを行う医師が多い

首都圏売上高比率64.5%

※首都圏：東京、埼玉、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、山梨

2 当期のハイライト

① 売上高伸長率の向上

- ☑ 施設拡大
- ☑ 品目拡大
- ☑ 医療機関との交渉強化
- ☑ C D R 認定教育
- ☑ S U D 回収事業

当期の売上高は前期比10.9%の増加となりました。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響が縮小したことによる回復分が含まれます。

② 売上総利益（粗利）率の改善と営業利益の確保

- ☑ 高利益率商品の売上高構成比のアップ
- ☑ メーカーとの交渉強化
- ☑ 拠点単位での適正な営業利益確保

価格下落による粗利率低下および虚血事業主力商品の取引条件変更による粗利率低下をカバーしきれず、全社粗利率は前期比0.4ポイント低下し、11.7%となりました。

売上総利益が回復（前期比7.6%増）した一方、販売管理費が増加しなかった（前期比0.6%減）ため営業利益は前期比47.8%の増加となりました。

③ 海外展開の具体化

- ☑ 自社製品について技術的準備、営業的準備のうえ輸出を具体化

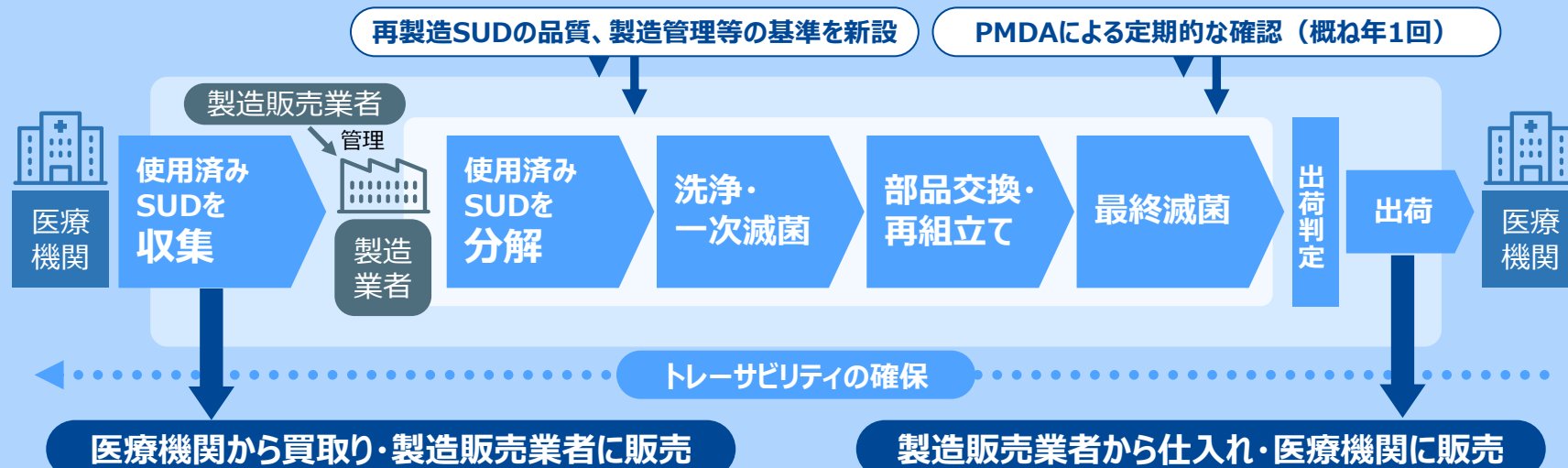
海外向けバージョンの企画・開発および海外代理店との折衝を行い、米国、台湾、オーストラリア、ブラジルへの輸出（初）を行いました。

④ 自社企画商品 RAQUOS

- ☑ 薬事認証の取得、取得後の販売活動開始

8月に販売を開始、期中に複数施設に本体システムの納品を行いました。
今後の販売に向けて、多数の施設でデモを実施しています。

再製造SUDに関する新たな仕組み



出典：「単回使用医療機器の再製造について（概要）」（厚生労働省）

(<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11124500-Iyakushokuhinkyoku-Iryoukikishinsakanrishitsu/0000173090.pdf>) を加工して作成

2018/12 回収事業開始
2020/6 販売事業開始

当期

買取先施設 63
販売先施設 22

品目
拡大

医療費
削減

環境
保護

資源
有効活用

ESG

NEW

カテーテルリサイクル事業の準備

使用した医療機器を回収して、それに含まれるレアメタル・プラチナ・イリジウム合金などの有価物を抽出して、リサイクルする



CDR

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等についての専門的な医療機器情報や医療技術情報を提供する者を指す。

CDR 認定制度

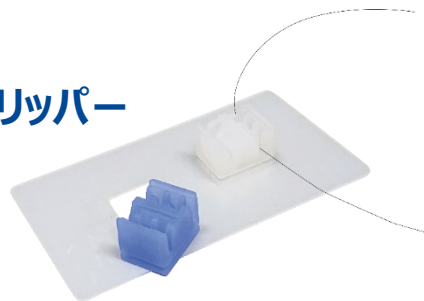
植込み型医療機器の適正かつ安全な使用のために、専門的な技術と知識を有し、かつ医療関連企業あるいは医療機関の従事者として高い倫理観を備えた専門家の育成を目指す制度。

当期合格者 15名

認定者 148名

国内代理店 最大

ディークリッパー



ガリバー



放射線防護カート
ディフェンダー

売上高

(単位：百万円)

600

500

400

300

200

100

0

2019/3

2020/3

2021/3

2022/3

ものづくり

高粗利率

ソリューション

エジソンプラン

RAQUOSインジェクションシステム

2020/10 薬事認証取得

RAQUOSディスポーザブルキット

2021/7 薬事認証取得

2021/8 販売開始

- 複数施設で臨床デモ、マシンデモを実施
- 国内トップシェアを目指す商品
- 本体販売後継続的に消耗品を販売するビジネスモデル

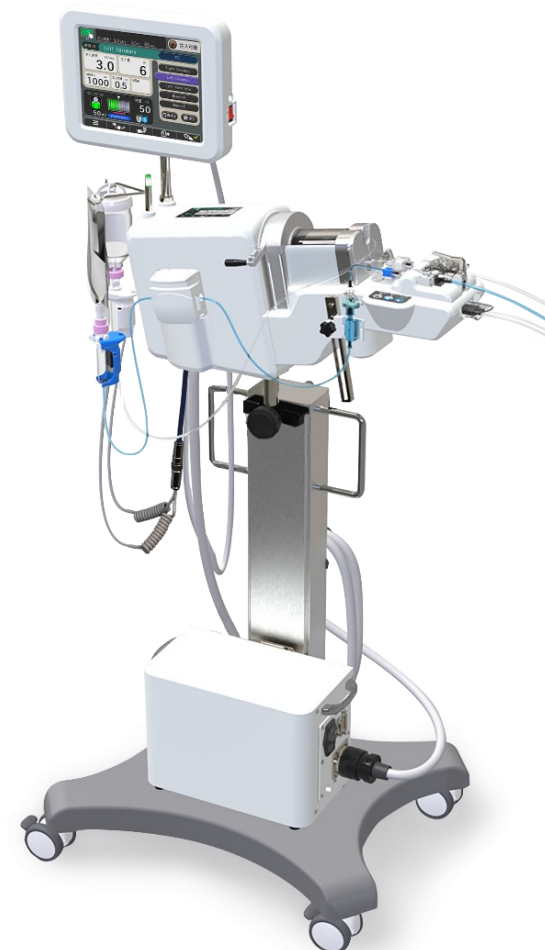
ものづくり

高利益率

ソリューション

人に優しい医療

売上拡大



造影剤自動注入装置
自社企画商品（製造は委託）

EPSトレーナー



当期 輸出開始

米国/台湾/
オーストラリア/ブラジル

輸出
拡大

RAQUOS



**当期 輸出準備
開始**

3 当期の決算概況

要約損益計算書



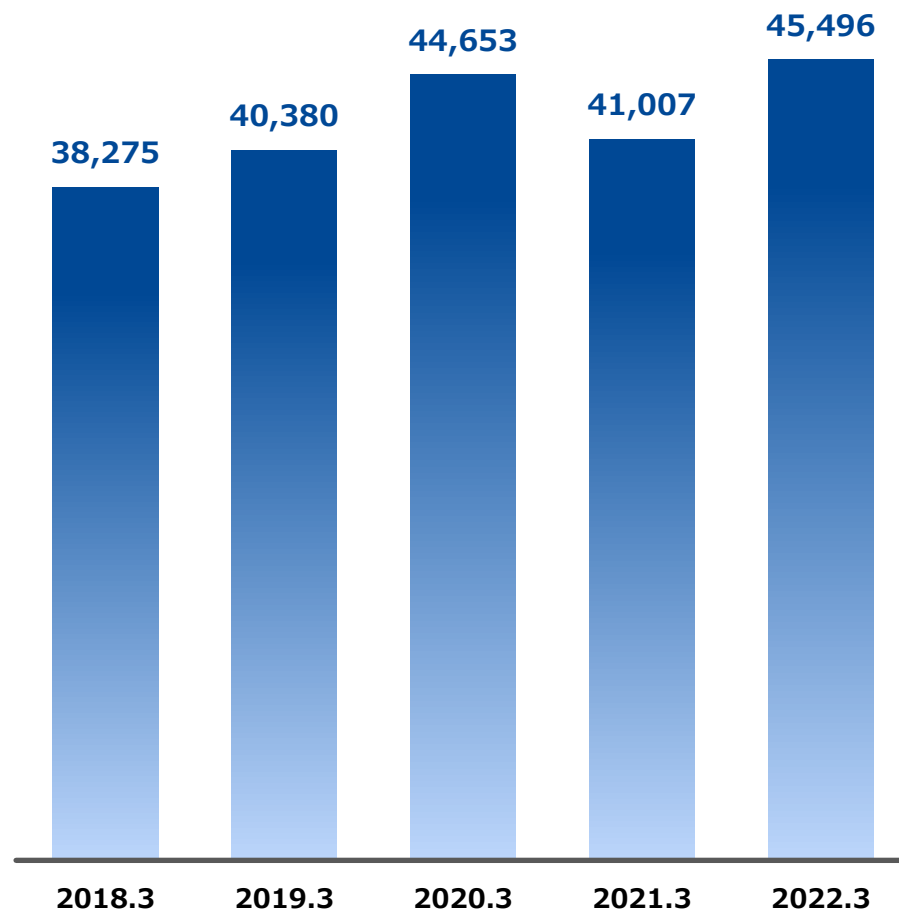
	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前期実績 (百万円)	増減率 (%)
売上高	45,496	100.0	41,007	+10.9
売上総利益	5,335	11.7	4,957	+7.6
販管費	4,083	9.0	4,109	△0.6
営業利益	1,252	2.8	847	+47.8
経常利益	1,258	2.8	850	+48.0
当期純利益	863	1.9	572	+50.8

(単位：百万円)

売上高 454.9億円

前期比 10.9%増 

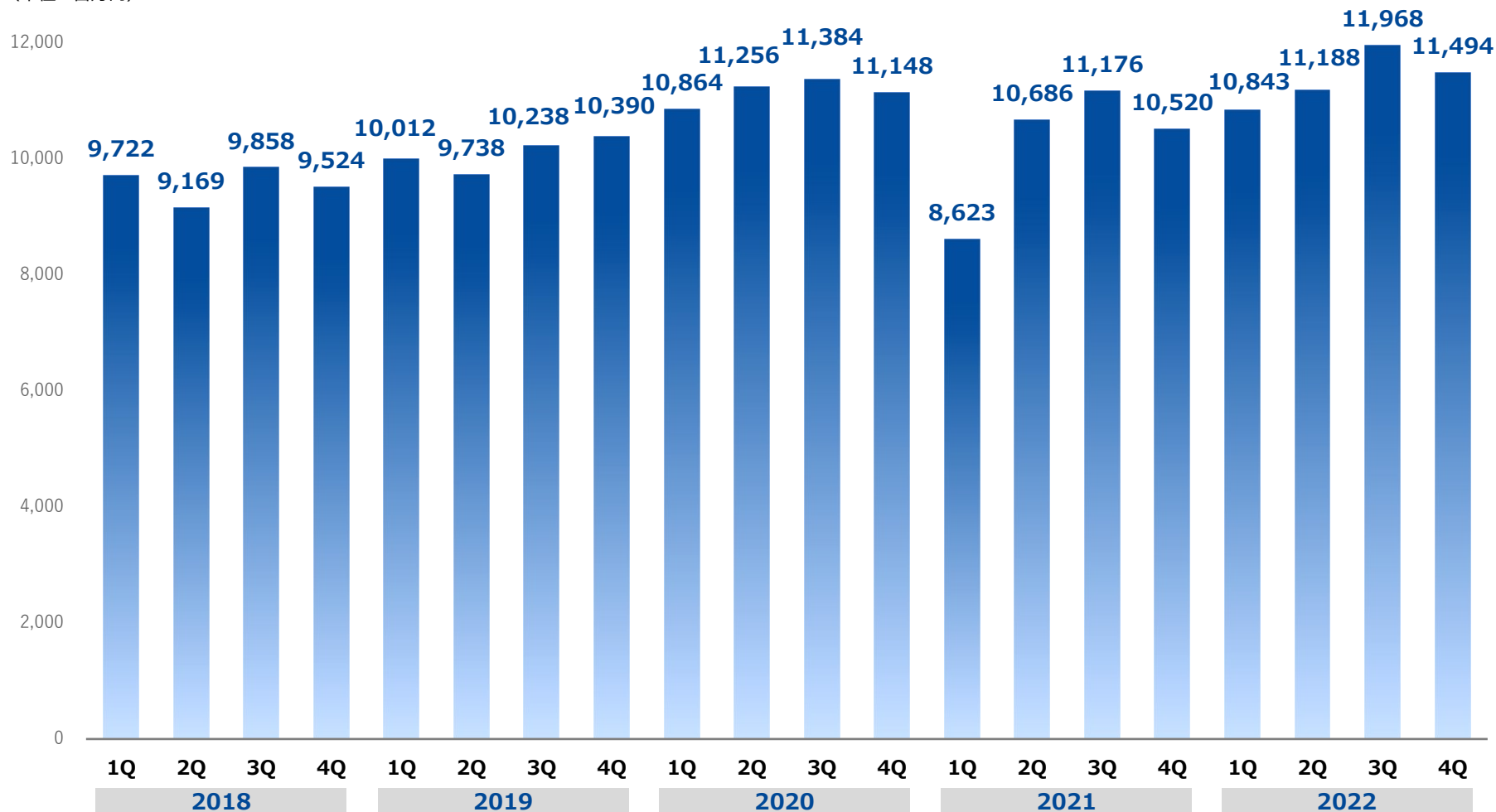
	金額 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	39,374	+11.7
虚血	3,185	▲0.4
その他	2,935	+14.9
合計	45,496	+10.9



四半期売上高の推移



(単位：百万円)



コロナの影響と推移（地域別）



四半期売上高（累計ではない）の推移

※新型コロナウイルス感染症の影響がない2020年3月期第3四半期（2019/10～12月）の売上高を100.0とした指数

		緊急事態宣言①					緊急事態宣言②	緊急事態宣言③	緊急事態宣言④	オミクロン	
		2020/3 3Q	2020/3 4Q	2021/3 1Q	2021/3 2Q	2021/3 3Q	2021/3 4Q	2022/3 1Q	2022/3 2Q	2022/3 3Q	2022/3 4Q
	関東	100.0	99.4	69.7	92.0	95.8	90.0	92.9	95.3	103.4	96.3
	関西	100.0	92.5	74.5	91.8	92.9	82.8	91.8	95.2	105.8	92.6
	中部	100.0	89.1	91.8	94.9	110.1	99.5	105.5	109.3	118.5	126.1
	その他地域	100.0	93.6	91.7	105.4	107.9	98.6	107.4	106.0	106.5	104.0
販売代理店業小計		100.0	96.8	75.6	94.0	98.9	91.7	96.2	98.4	105.9	100.8
総代理店業、他		100.0	125.4	79.4	90.2	80.8	110.8	72.2	95.3	85.6	106.0
全社		100.0	97.9	75.8	93.8	98.2	92.4	95.3	98.3	105.1	101.0

※ 販売代理店業 その他地域：東北、中国、四国、九州

- 関東、関西地区も第3四半期にコロナ前の水準を上回ったが第4四半期は再度下回る
- 全社売上は第3四半期、第4四半期にコロナ前の水準を上回る
- その結果、全社売上高（通期）もコロナ前（前々期）の水準を上回る

注：指数推移の要因は新型コロナ感染症の影響が全てではありません。

売上高（不整脈事業）



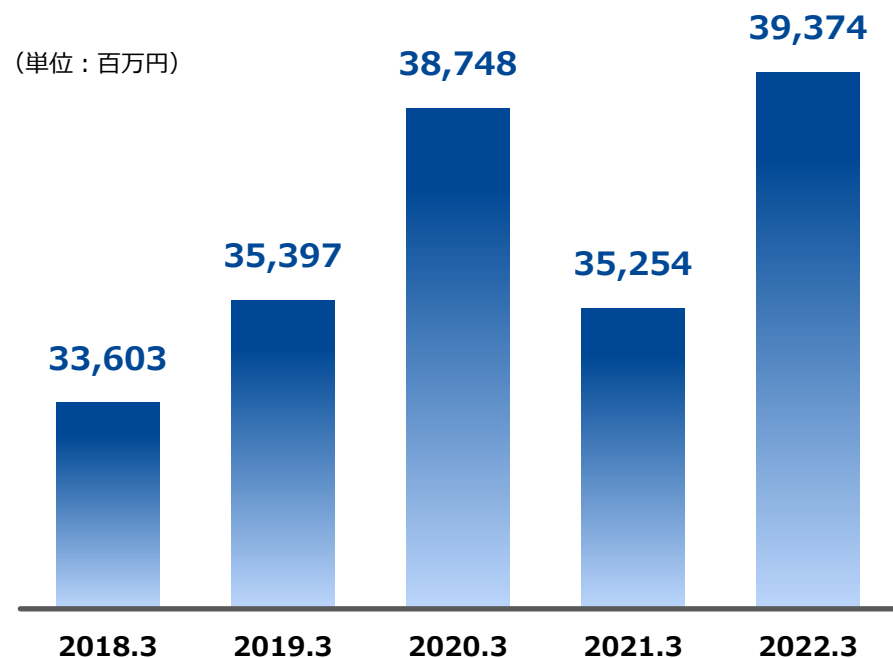
売上高 393.7億円

前期比

11.7%増 

- 症例数の回復
- 電極カテーテル、冷凍ABLカテーテルが好調
- 前々期比1.6%増

(単位：百万円)



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
PM	3,913	3,420	+14.4
ICD	2,117	1,871	+13.1
CRT-D	1,922	1,981	▲2.9
電極カテーテル	11,077	9,141	+21.2
心腔内エコーカテ	3,879	3,634	+6.7
ABL機能付	6,209	5,796	+7.1
ABLカテーテル	451	537	▲16.1
冷凍ABLカテ	2,331	1,762	+32.2
その他	7,472	7,108	+5.1
合計	39,374	35,254	+11.7

コロナの影響と推移（不整脈商品別）



売上高（百万円）

	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3			
				売上高	対2019/3 (%)	対2020/3 (%)	対2021/3 (%)
PM	3,412	3,575	3,420	3,913	114.7	109.5	114.4
ICD	2,246	2,300	1,871	2,117	94.3	92.0	113.1
CRT-D	1,493	1,868	1,981	1,922	128.8	102.9	97.1
電極カテーテル	9,545	10,460	9,141	11,077	116.0	105.9	121.2
心腔内エコーカテ	3,537	4,088	3,634	3,879	109.6	94.9	106.7
ABL機能付カテ	4,504	6,036	5,796	6,209	137.9	102.9	107.1
ABLカテーテル	1,259	854	537	451	35.8	52.8	83.9
冷凍ABLカテ	1,952	2,082	1,762	2,331	119.4	112.0	132.2
その他	7,447	7,483	7,108	7,472	100.3	99.9	105.1
不整脈合計	35,397	38,748	35,254	39,374	111.2	101.6	111.7

売上高 31.8億円

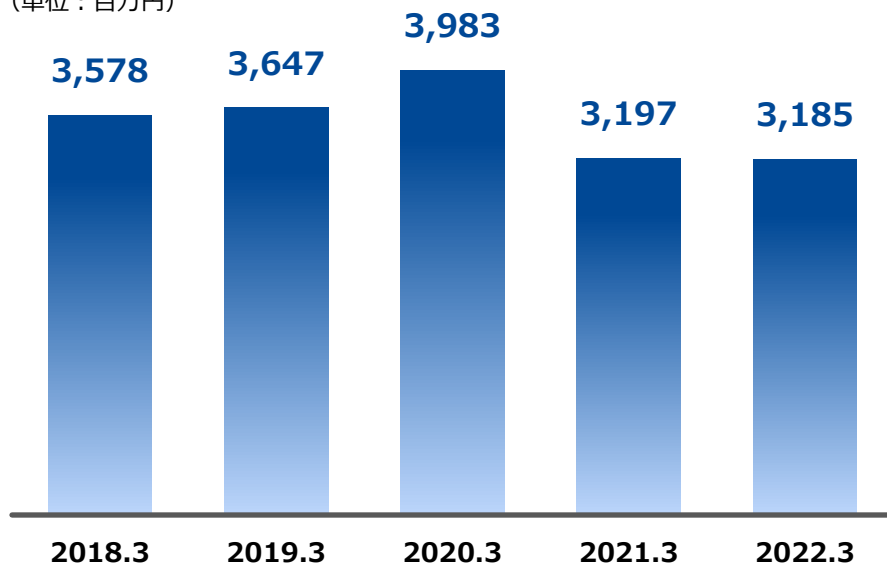
前期比

0.4%減



- 新型コロナウイルス感染症の影響
- レーザー事業取引条件の変更の影響
- PCI治療の適応ガイドライン
- 前々期比20.0%減

(単位：百万円)



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
SPNC	1,216	1,261	▲3.5
その他	1,969	1,936	+1.7
合計	3,185	3,197	▲0.4

売上高（その他）



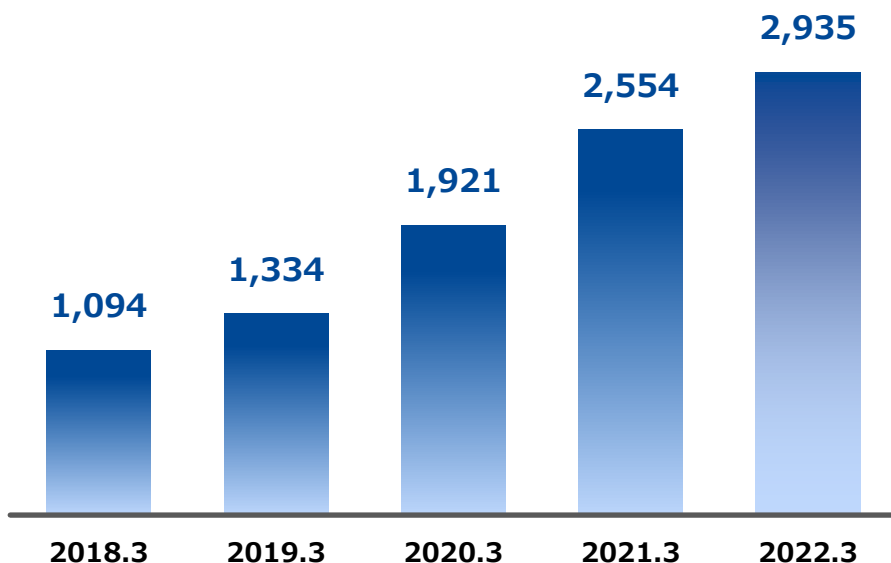
売上高 29.3億円

前期比

14.9%増 

- 当社にとって新領域であるため伸びしろが大
- TAVI、塞栓コイル、脳血栓除去デバイスが好調
- 前々期比52.8%増

（単位：百万円）



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
ストラクチャー	1,024	950	+7.8
頭部腹部領域	1,205	982	+22.7
心臓血管外科	148	120	+23.7
外科	120	80	+48.6
その他	436	420	+3.8
合計	2,935	2,554	+14.9

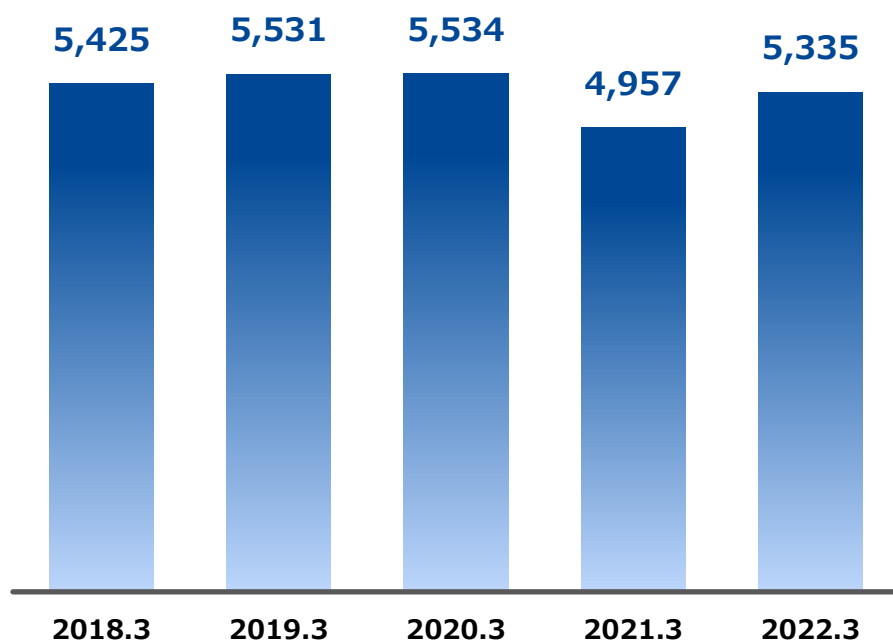
売上総利益 53.3億円

前期比

7.6%増 

■ 粗利率11.7%（前期12.1%）

（単位：百万円）



	金額 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	4,380	+12.0
虚血	599	▲16.1
その他	355	+7.5
合計	5,335	+7.6

売上総利益（事業別）



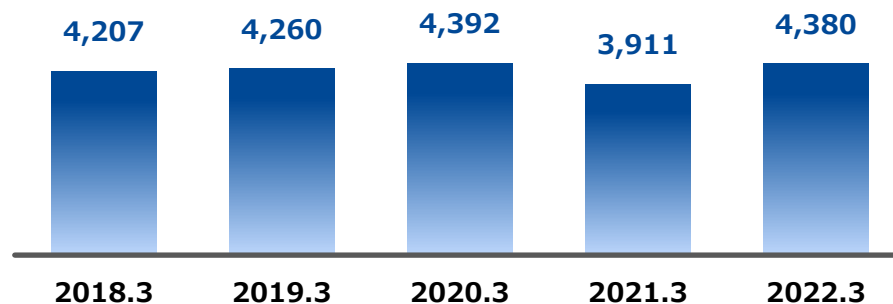
（単位：百万円）

不整脈事業

セグメント利益 **43.8億円**

前期比 **12.0%増**

- 粗利率11.1%（前期11.1%）
- インセンティブ獲得、高利益商品販売

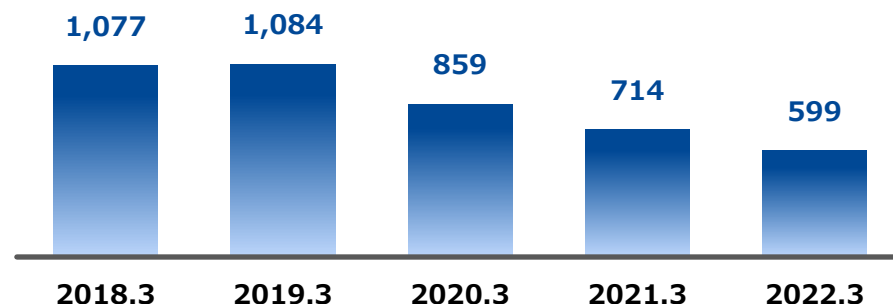


虚血事業

セグメント利益 **5.9億円**

前期比 **16.1%減**

- 粗利率18.8%（前期22.4%）
- レーザー事業取引条件の変更の影響

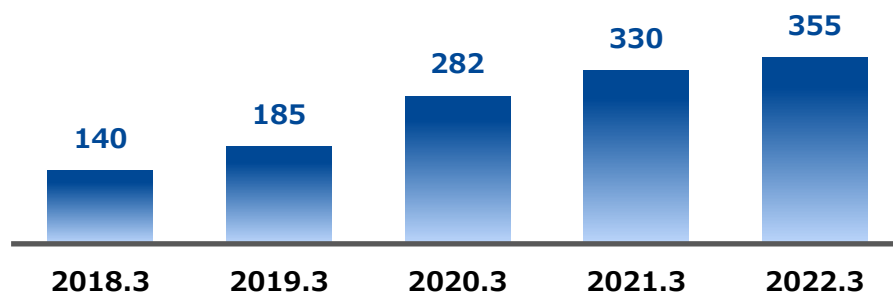


その他

セグメント利益 **3.5億円**

前期比 **7.5%増**

- 粗利率12.1%（前期12.9%）



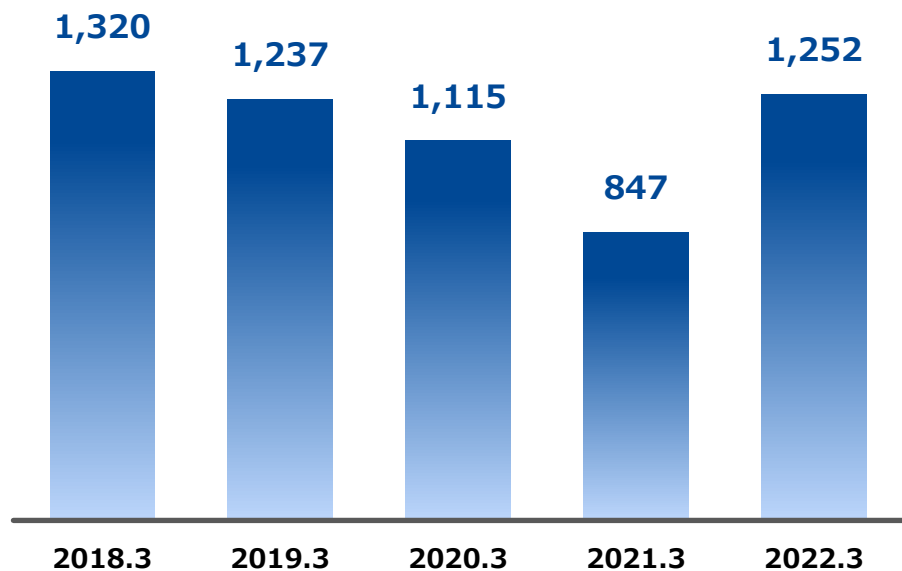
営業利益 12.5億円

前期比

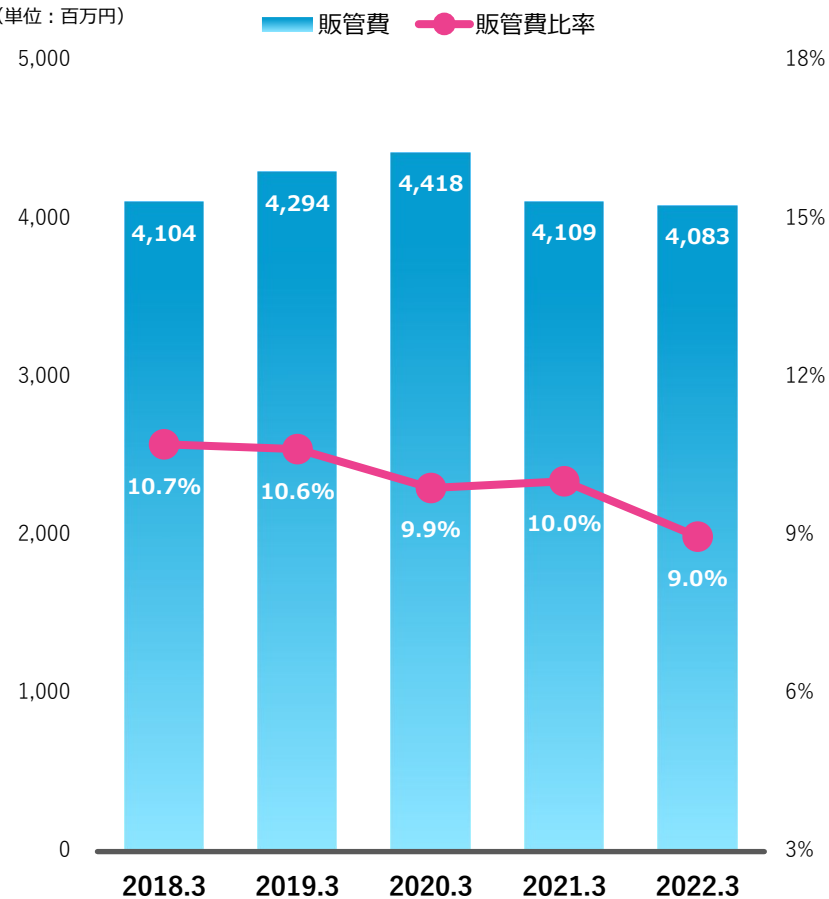
47.8%増

- 売上総利益 前期比7.6%増
- 販売管理費 前期比0.6%減
- 売上高営業利益率2.8%（前期2.1%）
- 売上高販管費比率9.0%（前期10.0%）

（単位：百万円）

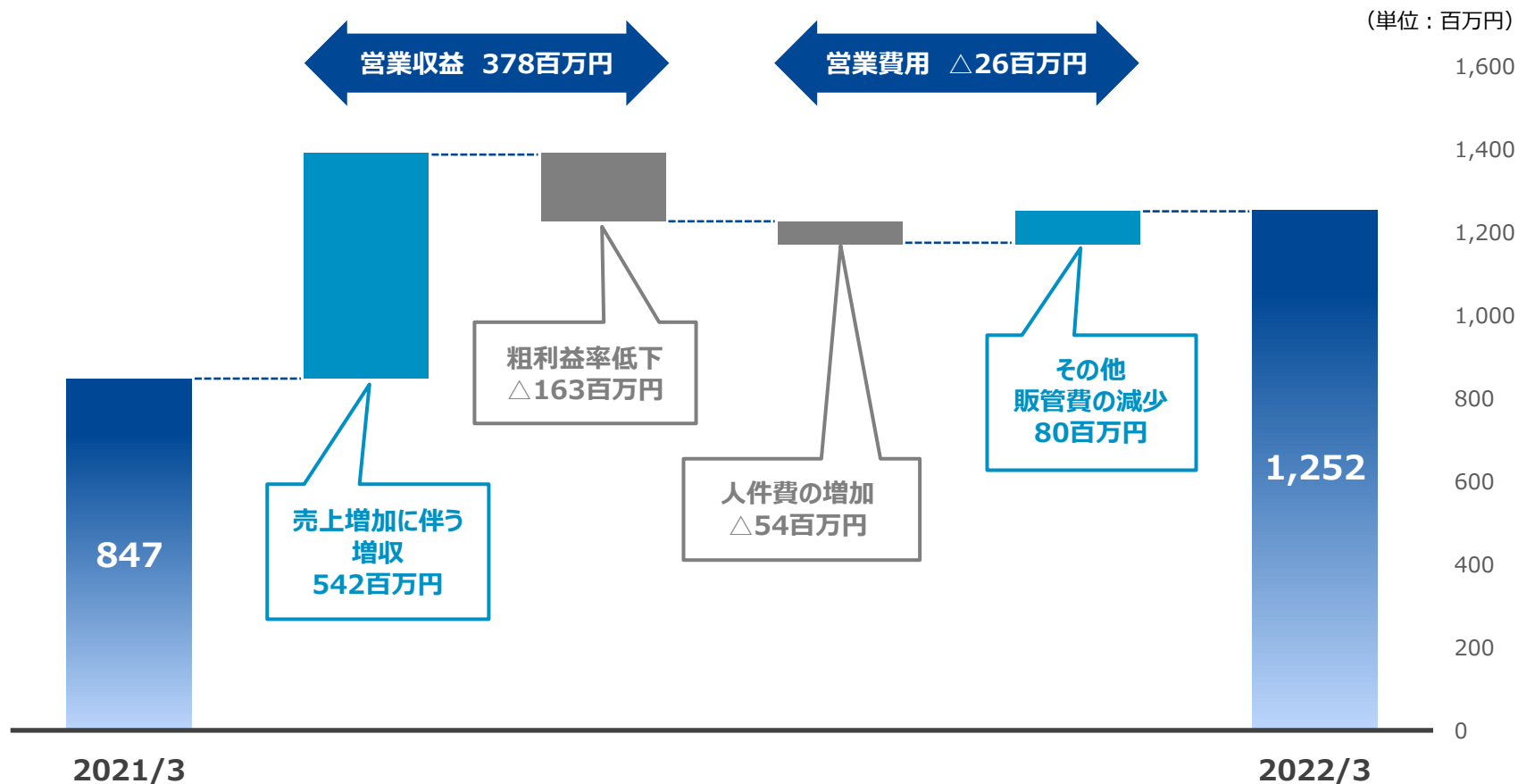


（単位：百万円）



営業利益増減分析

売上高の増加で542百万円増加、粗利率の低下で163百万円減少、
販売管理費の減少で26百万円の増加



(単位：百万円)

当期純利益 8.6億円

前期比 50.8%増 

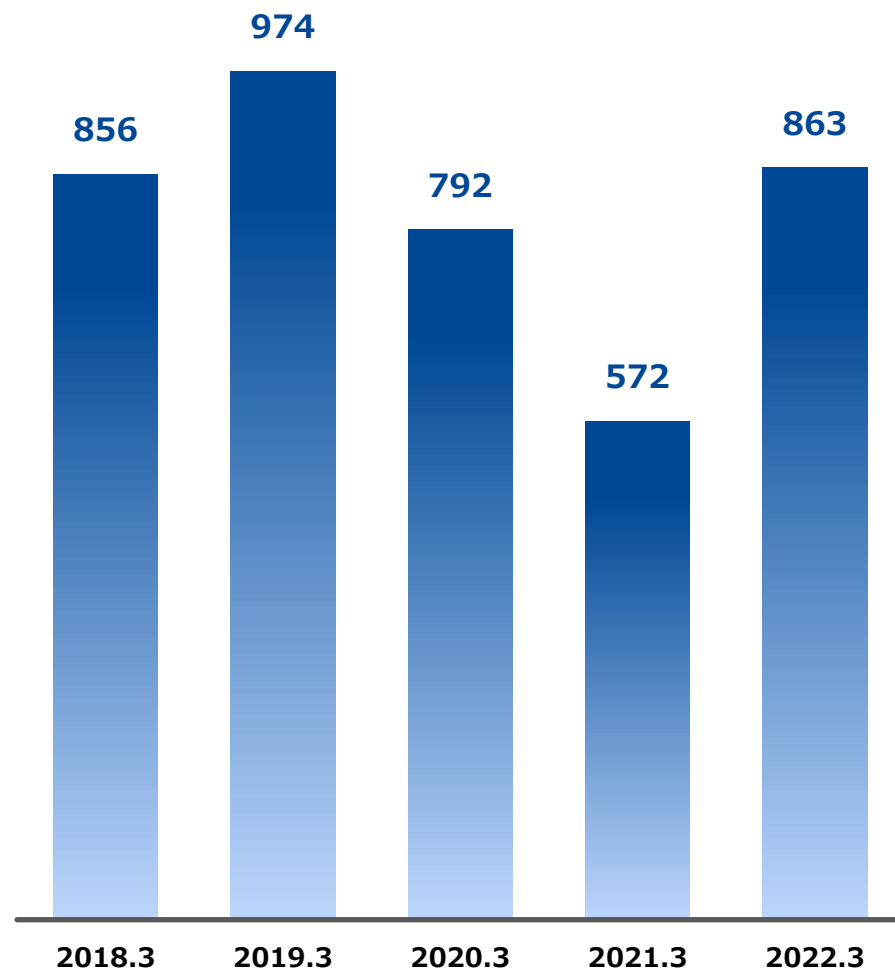
- 自己資本当期純利益率10.5%
(前期7.4%)

主な損益

- 為替差益 5.4百万円

主な前期比増減

- 為替差益 4.3百万円増加
- 固定資産除却損 5.2百万円減少
- 法人税等 122百万円増加



要約貸借対照表



	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末実績 (百万円)	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	20,827	93.8	19,176	+8.6	+ 現預金の増加 (1,360百万円) + 売掛金の増加 (660百万円) ▲ 商品の減少 (333百万円)
固定資産	1,383	6.2	1,391	▲0.6	
資産合計	22,210	100.0	20,568	+8.0	
流動負債	13,140	59.2	12,197	+7.7	+ 買掛金の増加 (804百万円) + 未払法人税等の増加 (159百万円) ▲ 未払消費税の減少 (60百万円)
固定負債	482	2.2	448	+7.5	
負債合計	13,623	61.3	12,646	+7.7	
純資産	8,587	38.7	7,922	+8.4	+ 当期純利益 (863百万円) + 自己株式の処分 (48百万円) ▲ 剰余金の配当 (247百万円)
負債純資産合計	22,210	100.0	20,568	+8.0	

要約キャッシュ・フロー計算書



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	当期の主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,687	1,743	● 税前当期純利益 (1,258百万円) ● 減価償却費 (366百万円) ● 売上債権の増加 (△566百万円) ● たな卸資産の減少 (140百万円) ● 仕入債務の増加 (804百万円) ● 法人税等の支払額 (△286百万円)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97	△217	● 有形固定資産の取得による支出 (△110百万円)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235	△273	● 配当金の支払 (△250百万円)
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,360	1,253	
現金及び現金同等物の期首残高	6,486	5,232	
現金及び現金同等物の期末残高	7,846	6,486	

配当方針

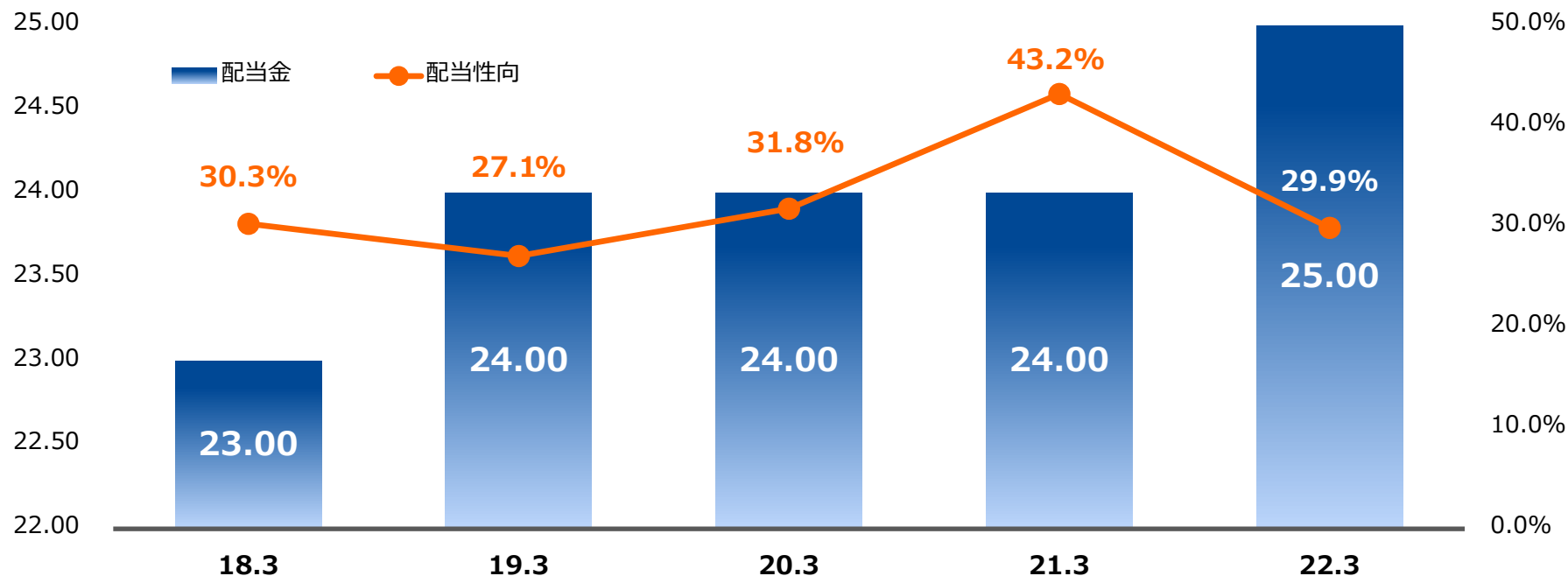
継続的かつ安定的な配当による株主還元を行うことを基本として配当を決定する

1円増配

配当方針及び当期業績を踏まえ2022年3月期期末配当を前期実績から1円増配し、1株当たり25.0円といたします

期末配当 25.0円 (配当性向 29.9%)

(単位：百万円)



4 2023年3月期の見通し

I 売上シェアの拡大

- 施設拡大（新規、取引消失先、大学病院、新規ABL立ち上げ施設、海外）
- 品目拡大（未取扱メーカーの商流獲得、新規商品の開発と導入）

施設

品目

II 粗利率の改善

- 対仕入先メーカー（価格交渉、ターゲット施設・戦略商品における協働）
- 高利益率商品・機器・自社企画商品の売上の拡販
- RAQUOSによる総代理店事業売上の回復

仕入

高利益率
商品

III 営業利益の確保

- コスト削減（費用対効果、時間コスト、選択と集中）
- 事業単位ごとの営業利益の確保

費用対
効果

選択と
集中

（単位：百万円）

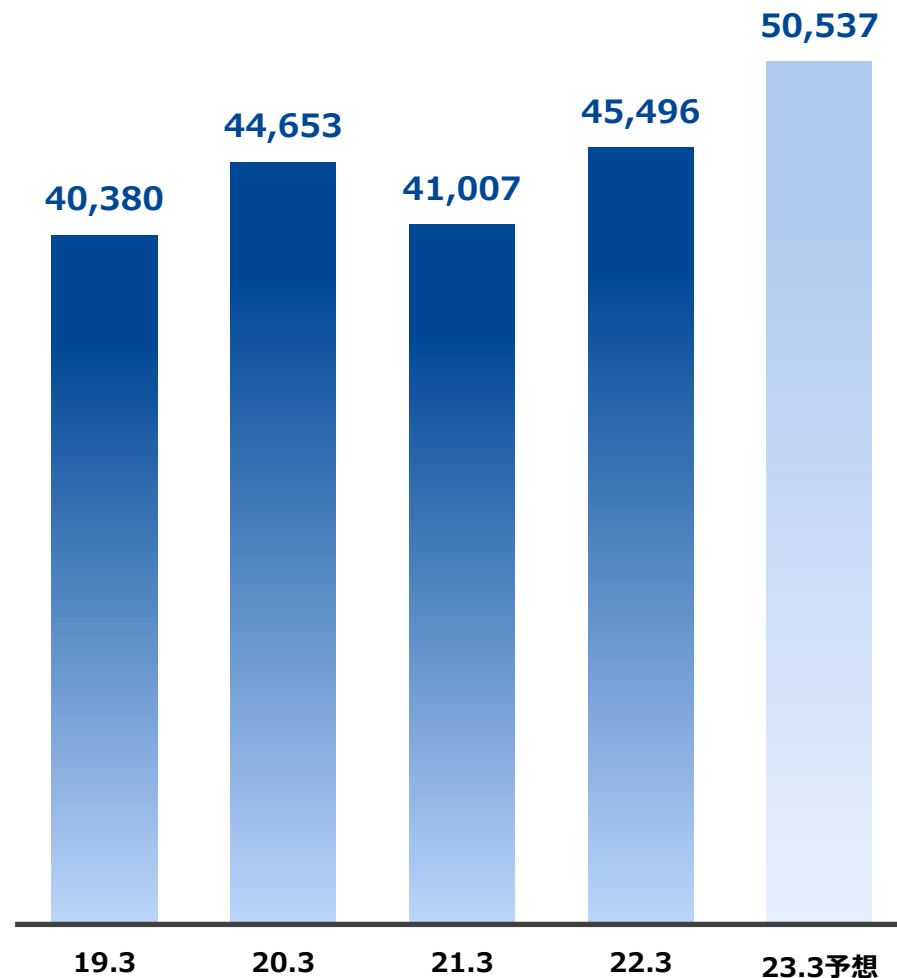
売上高 505.3億円

前期比

11.1%増



- 新型コロナウイルス感染症による影響の解消
- 施設拡大、品目拡大による売上増加を見込む



業績予想（営業利益、当期純利益）

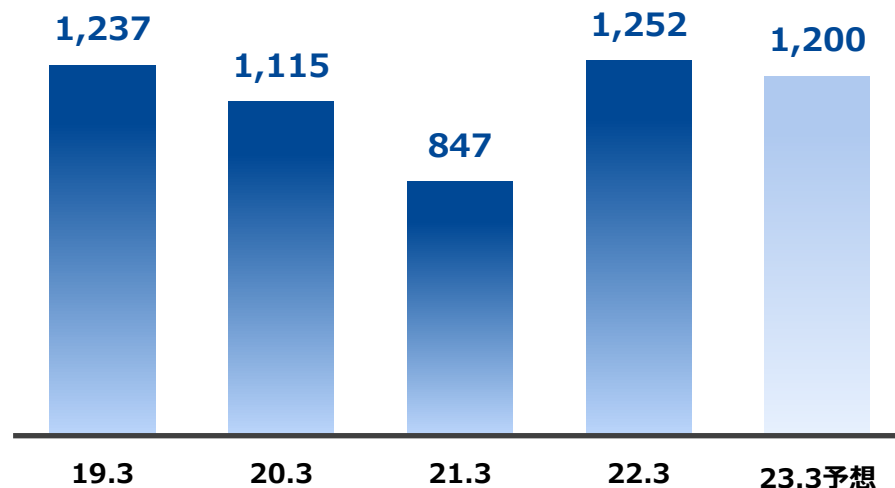


（単位：百万円）

営業利益 12.0億円

前期比 4.2%減

- 売上高の増加（営業利益増加要因）
- 粗利率の低下（営業利益減少要因）

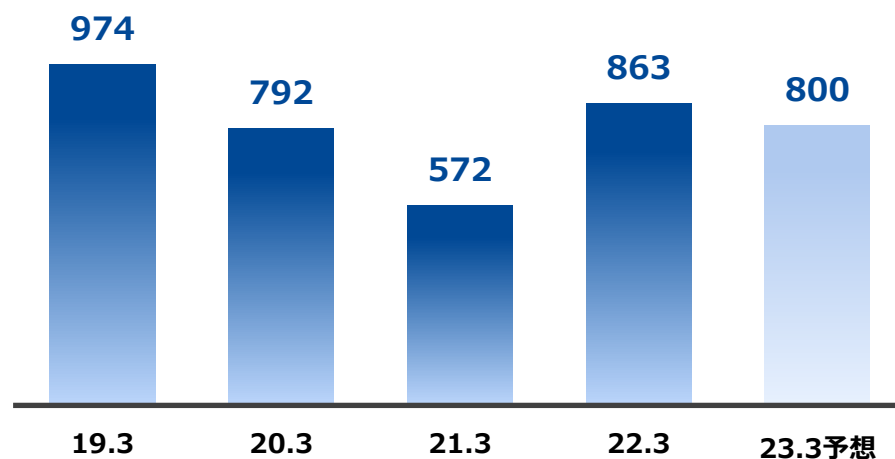


当期純利益 8.0億円

前期比 7.2%減

予想EPS 77円20銭

前期実績 83円56銭



期末配当金 **25.0円**

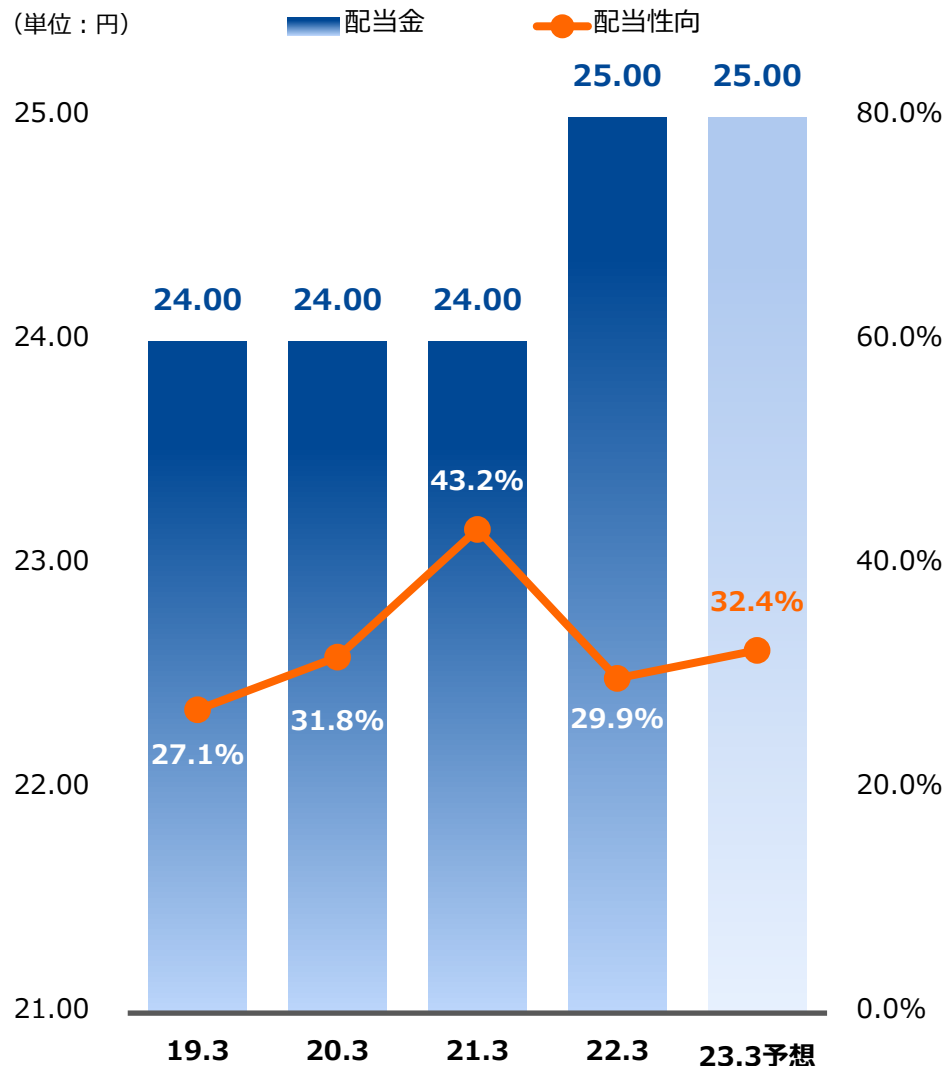
2022年3月期 **25.0円**

配当性向 **32.4%**

2022年3月期 **29.9%**

配当方針の継続

- 継続的かつ安定的な配当による株主還元を行うことを基本として配当を決定する



5 中期展望

専門性

首都圏

循環器分野の売上拡大

首都圏の売上拡大

循環器分野以外の売上拡大

全国展開

自社企画品の売上拡大

海外展開

新技術・
新商品への
対応

頭部領域
腹部領域
新領域

大型機器販売

総代理店商品
の拡大

自社企画品の
増強

RAQUOS

M&A
投資

医療への貢献機会の拡大

事業構造の変革

環境（Environment）に関する方針と重要課題

当社は、社会生活、企業活動の基盤である自然環境の負荷軽減に貢献します。また、医療業界におけるソリューションリーダーとして、未来を見据え、効率的な資源利用と環境保全に配慮した事業活動を行います。

環境基本方針/消費電力の削減/ガソリン使用量の削減/資源の有効活用

社会（Social）への貢献に関する方針と重要課題

当社は、『心』ある多様な人材を持続的競争優位の源泉と考え、全ての従業員がいきいきと働くことができる職場環境を整備し、幸せな生活と人生の基盤を提供します。また、従業員の創造的な活動を通じて、社会全体への最適な医療の提供に貢献します。

人事基本方針/安全な職場環境/ダイバーシティ（D&I）推進/働きがいの創出/地域社会への貢献/公正な取引の推進/サプライチェーンのサステナビリティ

コーポレートガバナンス（Governance）に関する方針と重要課題

当社は、自然環境、社会環境といった環境の変化に柔軟に対応し、果敢に挑戦することができるリスク管理体制を構築、維持します。また、社会やステークホルダーに対する責任を自覚し、その信頼に応えるため、適切な牽制機能を備え、透明性の高い情報開示を行います。

コーポレートガバナンスの強化/株主還元基本方針/内部統制システムの適正な運用/情報セキュリティマネジメント体制の強化/災害レジリエンスの強化/透明性の高い情報公開/コンプライアンス推進・リスク管理体制の適正な運用/役員報酬・指名決定手続

パーパス（私たちの存在理由）

生命と健康を守る。

ミッション（私たちがなすべきこと）

**患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供
最適な医療の普及に貢献する。**

ビジョン（その先にある未来像）

**医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。
人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、
新たな事業を開拓する。**

バリューズ（私たちが共有する価値観）

- 私たちは、人に優しい医療の実現に貢献する。
- 私たちは、ニーズを捉え、最適なサービスを考える。
- 私たちは、相互に理解し合い、相互に助け合う。
- 私たちは、自己の目標を定め、常に能力の向上を目指す。
- 私たちは、適正な利益を確保した公正な取引を行う。
- 私たちは、人の『心』をもって正直に行動する。



*Development
Venture*

X (無限の可能性)

IRについてのお問い合わせ先 財務経理部

TEL : 03-5985-6832 E-Mail : ir_form@dvx.jp URL : <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。